

OBOCANA MA

OBOCCNAMA

OBOCANA

合宿

報告書

1985 12/21 450

Pre冬合宿
+ 津の川
奇抜世の魂
城ヶ崎海岸

29

12/21

ようは

- 1. おこた
- 2. おたにし
- 3. おなべ
- 4. おみかん
- 5. おいぬ
- 6. おおに

おとり

Lewis and

HUEY LEWIS

Lacey Lewis and the news

Yes No I, Great, Thank you



SHINSHU UNIV. ALPINE CLUB

12/21

① 7:15 大町有料道路 ゲート

大町より TAXI

② 9:40 扇沢

トンネル入口より 2party 行動とする

先発隊

Member L 森 水谷 三野 瀬川 中村 豊田

① 9:45 扇沢 この間 2P.
11:40 タム

② 13:50 テボ地点 1450m 付近
橋を過ぎてからのトラバースが急。

③ 14:40 タム ^{ひざぐさのラベル}
トンネル歩きに注意 by 下カシ

後発隊

Member L 角谷 古賀 加藤 川端 小野 中村
松田 飛田

① 10:40 扇沢
12:10 タム この間 2P
13:40 扇沢 荷物をひたさざる
15:20 タム この間 2P

トンネルは電気がついており 路面状況も良好。所々水が
流れているので 飲める。この日は タムの 黒部湖駅で 記す
by 飛田

12/22

先発隊 L 森 古賀 加藤 川端 小野 瀬川 中村 飛田

① 6:50 T.S 発 昨日のテボを回収に行く

② 9:30 ロープウェイ 駅

⑧ 11:30 2150m T.S
 ⑨ 14:40 ロープウェイ駅 2150m の T.S と 駅の間を
 ⑩ 16:35 2150m T.S W ポップ 2, 3 回 回す
 T.S 付近は風

後発隊 L 角谷 水谷 三野 豊田 榎本 松田 安田

① 7:20 T.S 巻
 ② 9:45 黒部平駅 (ロープウェイ) テポル 94ト 出る
 ③ 11:00 94
 ④ 12:10 前日のテポル 3000 高をすべて回収
 ⑤ 13:30 既に先発隊が テポルを回収してある。Essen 巻
 風 巻く 行く 電 風は 強く トレスが 揺る
 Zビート 上がり
 ⑥ 15:30 2150 T.S 着 by 小野

12/23

先発隊 L 角谷 古賀 三野 豊田 松田 安田 榎本

⑧ 7:15 T.S 巻 高さ 程度 3, 4 回
 ⑨ 9:42 2,400m 付近 2 回 巻き 2 回 STOP L Z 巻き 巻き
 ⑩ 11:40 2681m の peak T.S 出る 巻き
 ⑪ 12:35 後発隊のテポル回収は 2400m 付近へ
 ⑫ 2:30 T.S 着

後発隊 L 森 加藤 川端 小野 瀬川 榎本 稲田 古賀

① 8:40 T.S 巻
 ② 9:20 2,400m 付近 中継 L T.S へ 出る
 ③ 11:30
 ④ 2:30 T.S 着
 途中で見えた 植木 感動 した by 七村

12/24

朝 赤松ト マウスの死め (はらこ待機)

2780mに2度 北に予小が吹れるが 中絶する

大量の降雪のため 雪が不安定なため 視界の

低下 10:00 ほど 上段の山 予小と 北に予小を

出た L角谷 森 古賀 川端 水谷

- ① 10:00 T.S 巻 風
- ② 11:00 p 2780 山下 予小が 北に深く 巻くため 雪が 重くなる
- ③ 11:30 p 2780 の辺り 予小が 北に 予小は p 2780 上に
- ④ 12:20 T.S

12/25

fix 隊 L 森 加藤

- ① 6:30 T.S 巻
 - ② 7:30 fix 地真
- fix 地真と 本隊と合流

本隊 L 角谷 古賀 水谷 三野 川端 一年全員

- ③ 7:45 T.S 巻
- ④ 9:10 2810m 付近 風が強くなり 吹雪になり 行動中止

予小の 無機 予小の 北に 15m の fix 一歩 戻る

風がよくなり 顔が 非常に 見えた 冬山の 天候の さまざまで 予小の 北に 一歩 戻る by 安田

12/26

fix 隊 L 角谷 水谷 加藤 三野

◎ 7:10 T.S 発 天気がよく冷えてきて寒い

○ 11:00 雄山へ雷電のコル fix 5本

雷電峰 手前のピークの登り下り

1本ずつ 40m x 9m x 2

雷電峰の登り: 50m x 7m x 1
40m x 9m x 2

○ 12:10 本隊のテボを回収してくる fix はすべて回収
T.S へ

本隊 L 森 古賀 川端 一年全員

① 8:40 T.S 発

① 9:15 雷電峰 手前のコル 荷物をテボし 本 T.S へ帰る

① 10:15 T.S

① 12:00 雷電 雄山のコル T.S

雷電峰 手前のコル T.S の間をダブルボック fix のアソ

アソビをはく 天気は最高 by 小野

テボ隊 L 角谷 森 古賀 川端 小野 飛田 中村 松田

① 13:15 T.S 発 雄山神社直下の下降で 中村(中)が

① 13:30 雄山 室堂復た滑落 角谷 古賀
川端が救助。森 小野 飛田

① 15:30 T.S 松田は頂上で待機 T.S より

水谷 三野がサボリた頂上へくる 救助隊

は 中村とあつた 頂上で合流 全員 T.S へ

こゝからは事故報告書参照"

12/27

26日のリーダー会で 雄山より 室堂へ 全員下山
と決定。しかし 強風と ホワイトアウトのため 決てん

昼食が 3食あって おなかいっぱいだった 寒かった by 豊田

12/28

fix 隊 L 森 三野

○ 7:30 T.S 登 fix 雄山の下側 { 100m x 1 快晴
30m x 2

○ 9:30 一の越 本隊と合流

本隊 L 角谷 古賀 水谷 加藤 川端 1年全員

○ 8:10 T.S 登 雄山山頂までの 獲線は がたがた
風ッ クラスト

○ 8:40 雄山山頂 一の越まで fix 3ヶ所

○ 9:45 一の越 小屋
風ッ

○ 11:15 室堂 バスターミナル 風はよく 急に寒くなった

○ 14:50 立山荘前 T.S
室からの下りは もとはやくおりましたと思ふ by 中村た

12/29

L 角谷 他 全員

○ 7:35 T.S 登 ひざ下ぐらゝいのラッセル

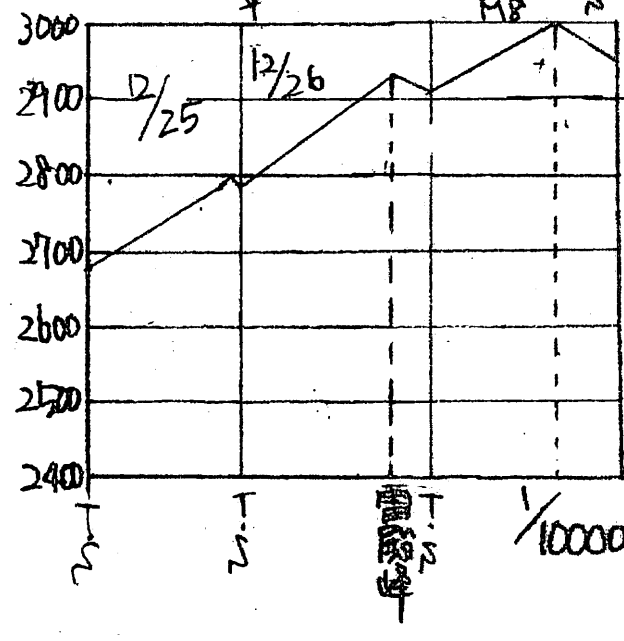
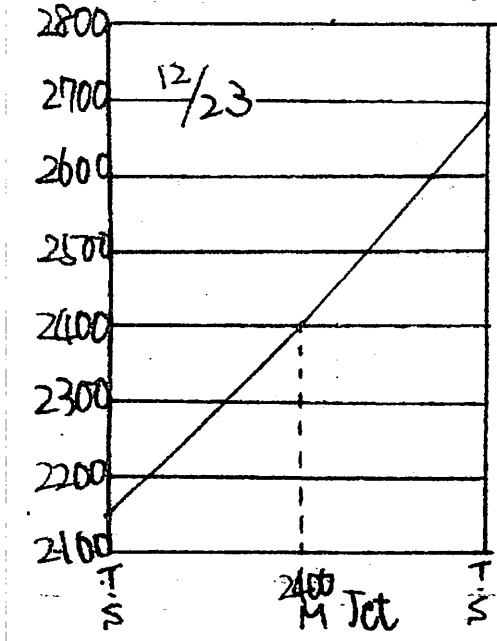
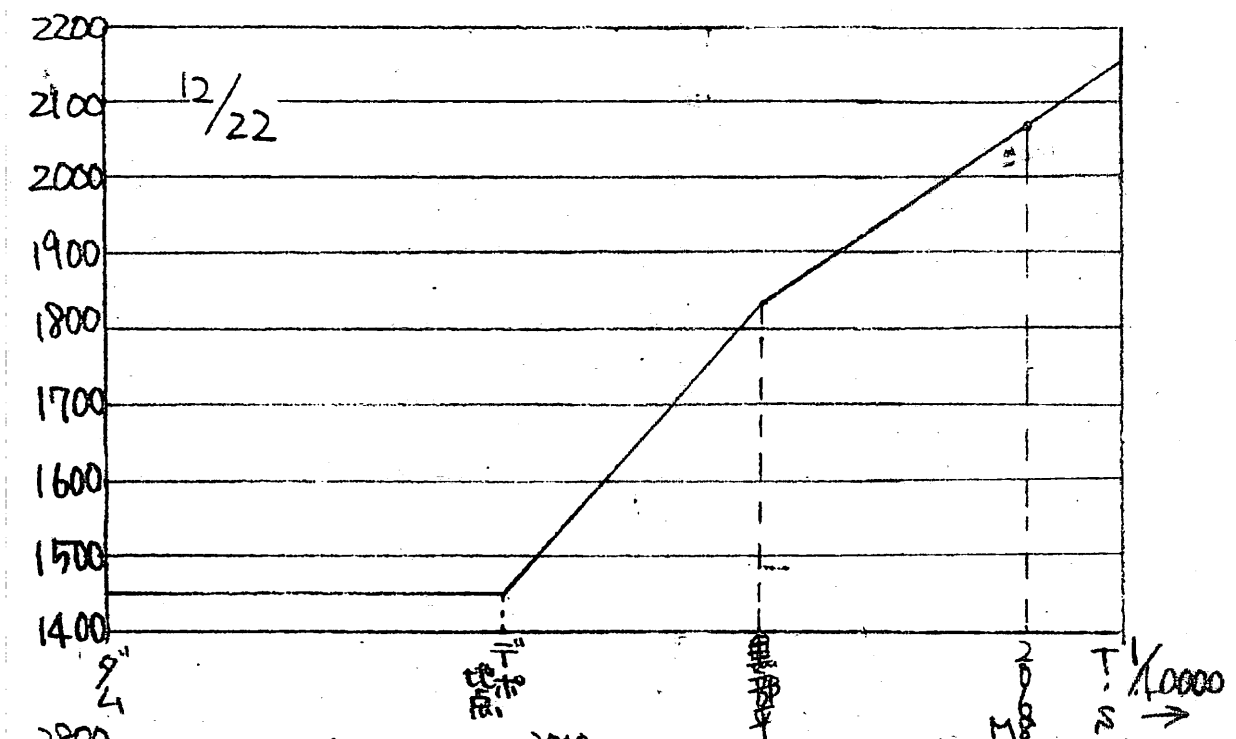
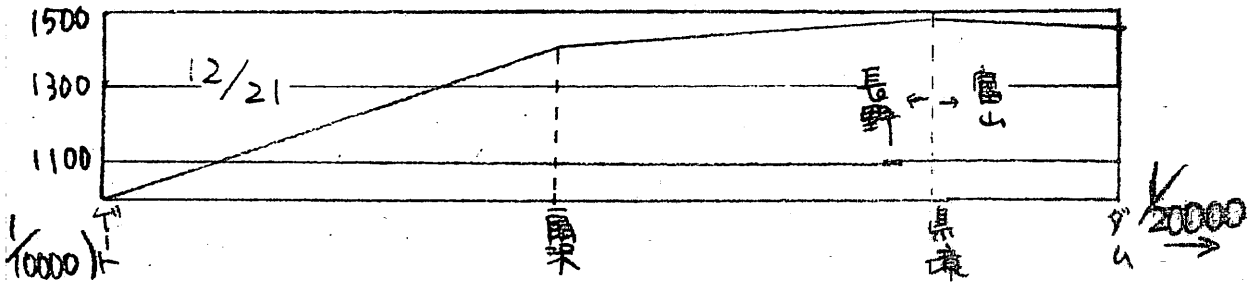
○ 1:40 美女平 ホカホカで 春山のような感じ

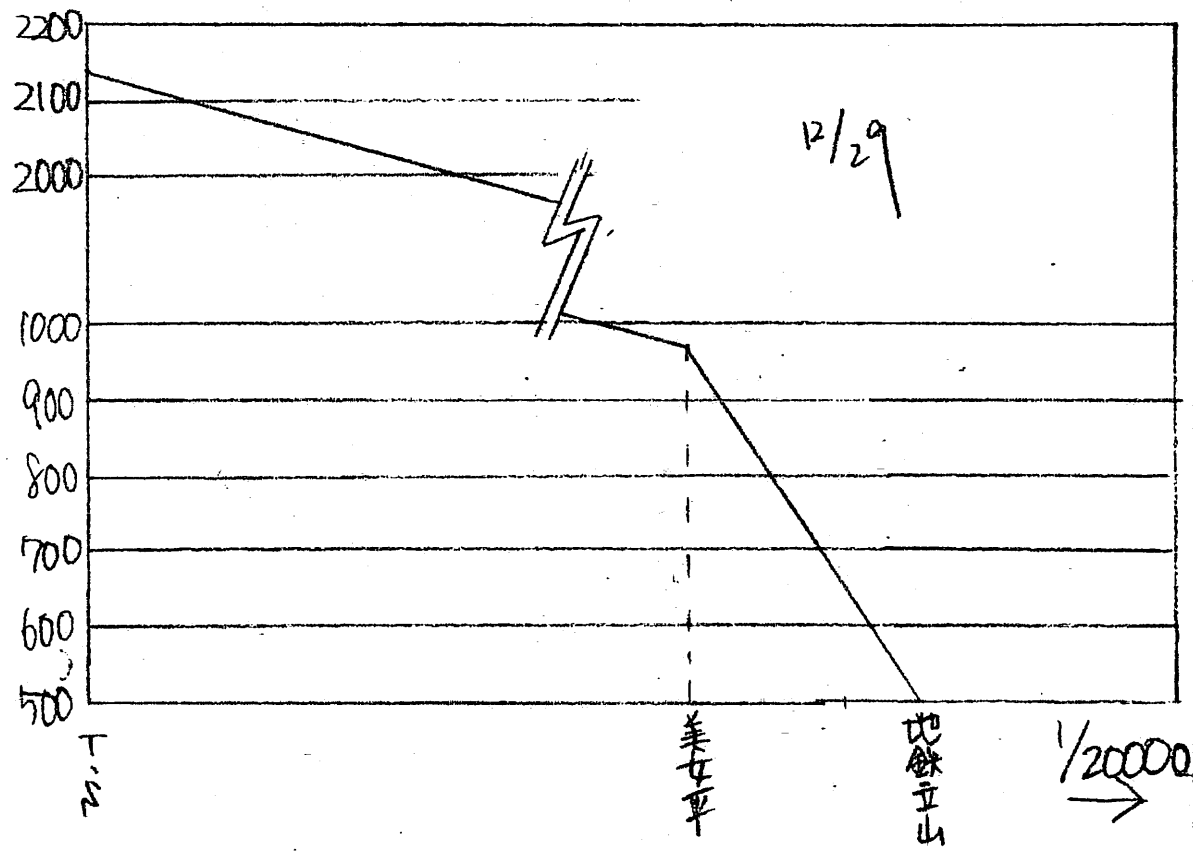
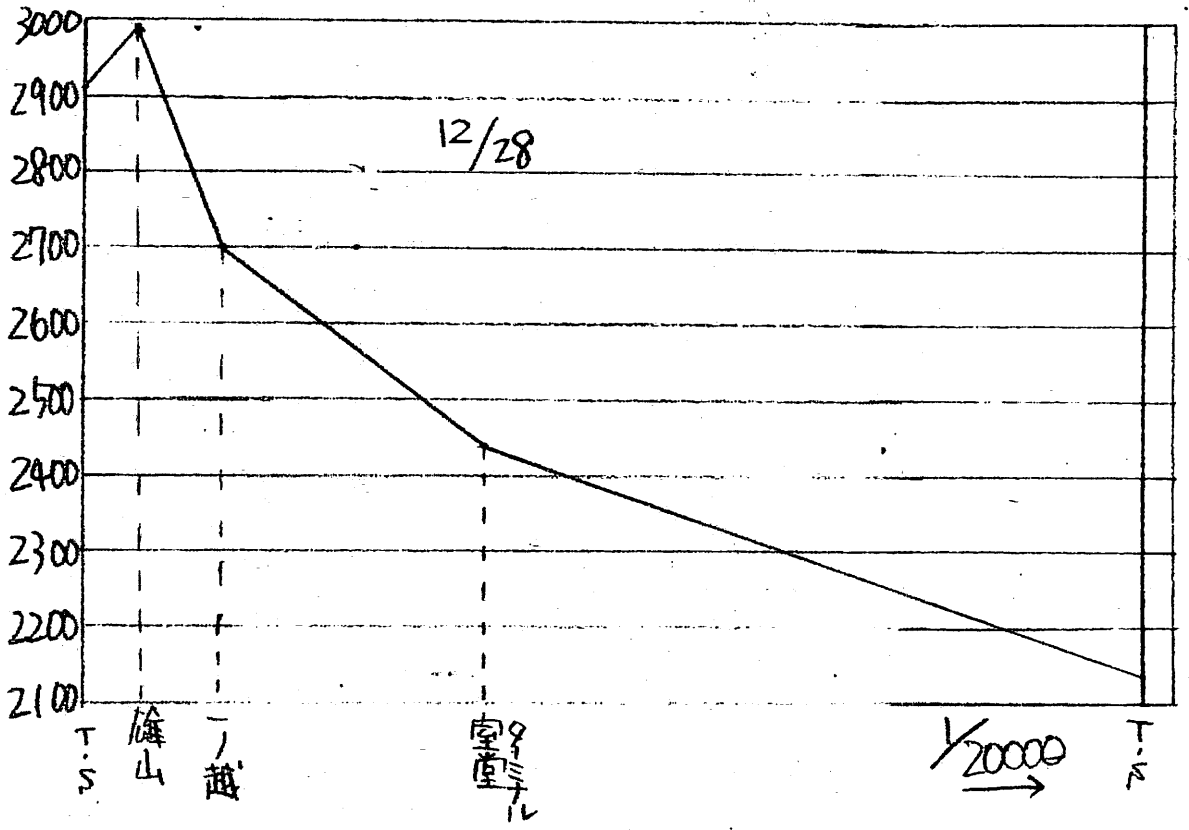
○ 3:05 地鉄立山駅
by 豊田

1 行動表 (太線 Fix 地点)

	松本	大町	Y	扇求	黒野山	1450 M	黒部平	2150 M	2400 M	2681 M	2780 M	雷野山
12/21 (土)	電Taxi 車					← DEPO	⊕ 突隊 ⊗ 突隊					
12/22					⊕						T S	
12/23					T S		⊕					
12/24							T S	DEPO			DEPO	
12/25								Fix隊 本隊				太線 Fix
	雷野山 (2780 M)	雷野山	2910 M 北	雄山	一越	室堂	赤平	美平				地録 立山
12/26						Fix隊						
	本隊					←	≡ 本隊					
12/27												
12/28												
12/29												
						T S						

2 高度表





係からの反省

○ 装備

by 川端

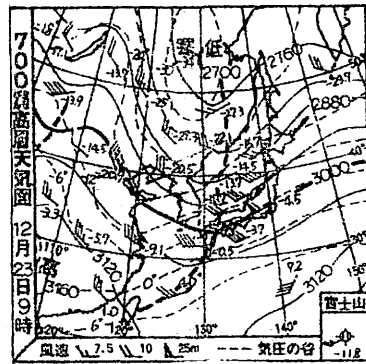
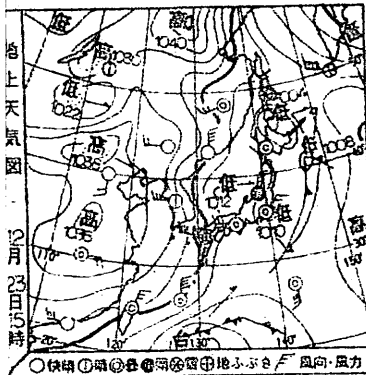
NO.

使用量 12/22 ~ 12/26 (4泊分)

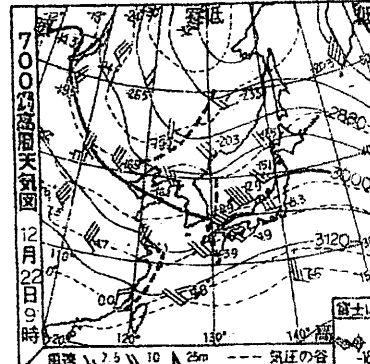
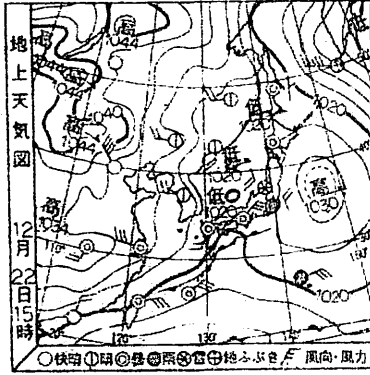
	ガス	8L	134cc / 1 day
	×タ	76本	19本 / day
	ローソク	2本	0.25本 / tent · day
	雪袋	2枚	0.5枚 / day
	電池	使用せず	
粉失・	竹 1'ク"	12本	
消耗	はし	3本 (1.5組)	
破損	スコップ	1本	
	お玉	1本	
残置	ガイル	9mm × 40mm × 2本	
	クレモナ	100mm × 1本	

- ・ ガスの使用量はタンクに目盛りが無く 多少の誤差はあるが、おおむね例年通りとなった。
- ・ 小さな雪袋に雪を小分けしてテントに持ち込む法はなかなか成果があったので、今後も活用したい。それから雪袋の消費が早すぎるので、各人取り扱いに注意すると共に別の袋を捜す等考えたほうがいいかもしれない。
- ・ スコップは2本持っていったが、あと1~2本多ければ、設営時間をさらに有効に利用できると思う。
- ・ トランシーバーは混信等が多く、事故の時に連絡に手間取ったので、早く新しいものに変えた方がいいだろう。
- ・ テントのホールが入りにくかったので、さらにもう少し切ったほうがいい。
- ・ 新しいガスホリのガス漏れが多く、使用に耐えかねた。行動日数に直接響くものだけに、もっとしっかりチェックすべきだった。最後に準備時の不手際で、みん存に迷惑をかけてしまい、申し訳ありませんでした。

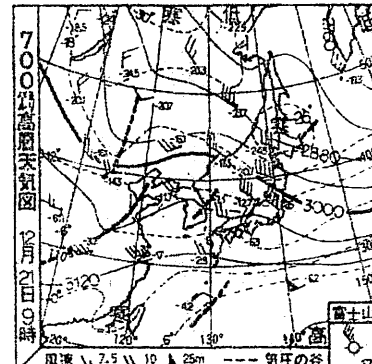
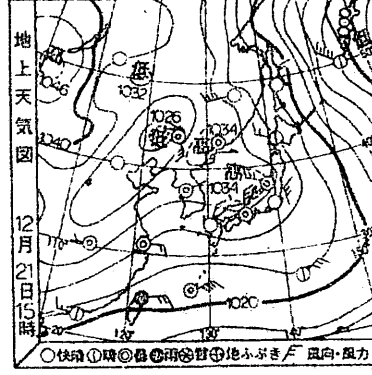
23日



22日



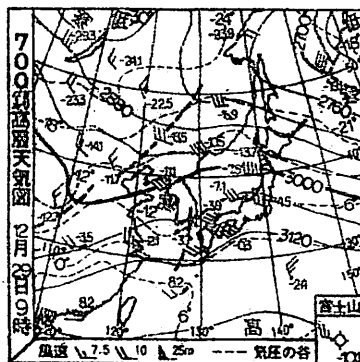
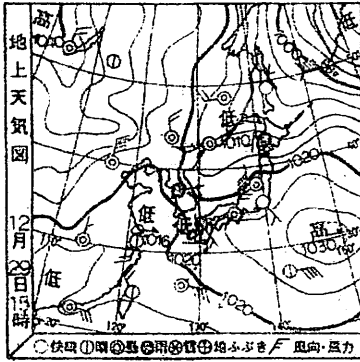
12月21日 15時



23日

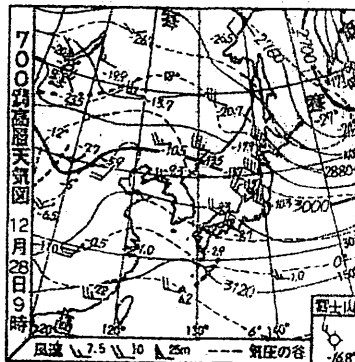
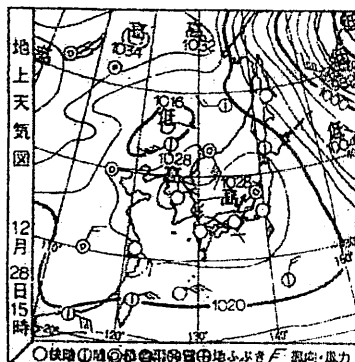
— 山でのみ天気です

29日



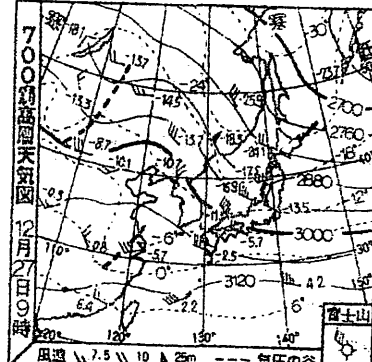
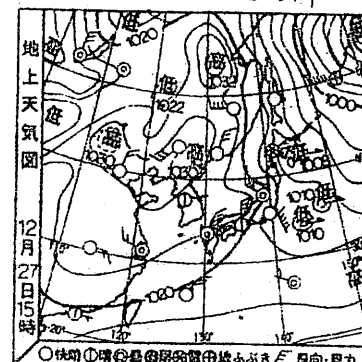
22日

28日



12月21日 9時

12月27日 15時



29日

28日

12月27日 9時

Essen

Breakfast.

- マカポテはオーソドックスな作り方をしたが、もう少しいぬりが欲しい。
- 乾燥野菜が少なかった。
- もう一品ぐらいいレパートリーが欲しい。

Lunch.

- 今回、新しく「かりんとう」「あげせんべい」を加えたが、実動日が少なく標価がはっきりしなかった。春山等で実験を続けてほしい。また、かまぼろしのごちそうパーティーの場合、パッキングに工夫がいるだろう。

Dinner

- メニューが7種類しかなく貧弱。
- 乾燥野菜が種類、量ともに少なかった。
- 飯の量は去年と同じにしたが、合宿後半には、ひききくた、こいたかもしれない。

おやつ

- 温プリンが好評だった。
- 濃厚な味の物の作りが良かったらう。

Essen 袋

- 日数が少なく、食いつぶしが多かったのでは、きりした方がいい。最初の頃は、水を多く作りすぎでコンソメ等の消費が多かった。たしの素、コンソメなど1の2割増にした方がいいだらう。

つけたし

- エッセンスが安かったのは、昼めしを伊那でまとめ買いしたせいもあるのでは？
- パッキングの時は確実にし、できれば、再度点検をした方がいい。

医療

○使用した薬品

シツ	ア×1	} 中村ユ
オキ	シワル.	
マ-	キユロ	
保護	カーゼ	
包帯		} 松田
ユバラ	凍傷用	
ユバラ	セーダツ	

今回は医療カンの中に包帯がなかった為、若太郎さんの個装を使わせてもらった。包帯、その他眼帯、三角巾ぐらゐはやはり入れてほしい。できれば抗生物質も欲しいところだ。

会計

★ 収入

合宿費	20,000 × 15 = 300,000
カンパ	1,000
<hr/>	
総収入	301,000

★ 支出

Genon 費	164,000
装備費	42,755
交通費	62,640
その他 (電話代、ビル代 etc)	4,000
<hr/>	
返金	273,000 (概算)
	29,500
総支出	302,500

残金 (松本の部費) ⇒ 6,144 (pre 冬の残金合計)
 * 計算は正しくない! - おおよその数字であります。
 (残金は正確)

★ 今回の合宿費 --- 18,000円 でコジール

★ Genon 費が安かった。交通費も多少安かった。装備費には Fix 具は含まれていない。

個人の反省

アイゼンワークがだめだ。たのど春山で練習したい。ワカニ
日だいたい怖れた。ルートファインテンニグはプレ冬より上
達したと思う。体力能にはついでにかけたが細かいところ
E.S. E.M. は日数がたつにつれてだめなところが多い。他の人に送る
くもかけた。今回は日数が少なかつたのでバテの面を不安
だ。春山に多く行き不十分な点をおぼえて行きたい。
(宇田)

1年最後の合宿が多くの点でまだ未熟。春山でE.S. E.M.
アイゼンワーク、体力及び精神力をつけた。今回は天気が
良く冬山の素晴らしい感動した。
(飛田)

気がまよや裝備の不足で木口が出た。自分自身だらしない点
が多すぎたのが残念です。
(三瀬川)

日数が長いので初めはなりのプレッシャーを感じた。細かい
個装の準備ができていなかった。体調は安定していたがトリーニ
ニグ不足を感じた。ワカニで下降時、マテップをくずし昂か
たのど再確認の必要がある。Essenの時連続で雪崩りをし
たが、気持よく働けなかった。
(中村)

テニ場についてた時、積極的に働けなかった。体力的にもまだ
まだだ。マカポテが食べ過ぎた。
(小野)

雄山から先に行けなかったのは残念。行中中は晴の時間が多く
良かった。耐寒訓練が足りなかった。三日日ごらいから体調
とくずした。
(豊田)

事故を起してみんなに御迷惑をおかけしました。冬山は
小さいけど危険がいっぱいなので技術や体力をつけるよう
もっと努力していきたい。細かいことはまだまだある。もた
かく生きて帰るときは、けがも大したことなくとうれしい。
(中村)

まづ、山行に対しての心構えがしっかりできていず各所でみ
んなに迷惑をかけてしまい申し訳なかった。Essen中、行動
中を問わず、一年に注意している余裕が少なすぎた。山行中
だめな雰囲気にはきずられ自分から率先してよりbetterな方
向へ持っていくことができなかった。
(川端)

PL 冬合宿(11/29 ~ 12/1)

猿倉 ~ 小日向の2ル ~ 奥双子の2ル ~ 猿倉

Member Ⅱ. 角谷 西古賀 森 下田 加藤 水谷(Ⅳ)
川端, 三野(Ⅳ), 豊田, 瀬川, 安田
飛田, 松田, 小野, 中村₁, 中村₂(Ⅱ)

行動記録

11/29 松本 ~~→~~ 白馬駅 ~~→~~ 林道 ^{1P} 林道 ~~→~~ 猿倉荘 ^{2P} ~~→~~
5=10 8=40 9=30 10=00

— 3P — 4P — 5P — 6P 小日向の2ル, T.S
11=15 12=15 1=40 2=40

天気: 雪

タクシーで、二保と猿倉の間ぐらゝまで入れた。ホワイトアウトでルート・ファインディングが難しかった。

11/30 T.S — 1P — 2P — 3P — 4P — 5P かんば平 T.S
7=45 8=55 10=30 11=40 12=30

天気: 雪

今日もホワイトアウトの中をラッセルして進む。

12/1 T.S — 1P — 2P — 3P — 4P T.S
7=30 8=30 奥双子の2ル ^{2400m}
9=45 10=55 12=00

天気: 雪

雪の林態が悪いのと、時間おれで引きかえす。fixを2本張ったが、それほど危険な所はなかった。

12/2. T.S — 小日向の21Lの前 — 長走沢 — 猿倉荘 —
 7=30. 10=20 12=15 1=45
 — 二俣茶電所 — 白馬駅 — ~~松本~~ 松本

3=00
 天気: 雪

2050. 付近2.1Lトファイニティニケを誤る場面もあったが、
 だいたいスーズに降りられた。長走沢の上部の斜面をトラバースした際、もと間かきをあげ、スローに行動するべきだ。
 高度が下がるにつれて、みぞれ→雨になり、全員、びしょ濡れになった。
 駅で、暖かい飲み物がうれしかった。

会計報告

★収入
 ・山行費 — 105,000.

★支出
 ・交通費 — 37,930
 (松本 ↔ 白馬 往復 28,000.
 (白馬 → 二俣 → 合枝 6,090
 (二俣 → 白馬 3,840.)

・ESSEN 費 — 60,650.
 ・装備費 — 18,280.
 ・電話代 — 110.

116,970.

総支出 — 98,690. (但し、装備費は全2.0Bおりのかた別出しした。)

★ 総収入	¥	105,000.
〃 支出	¥	98,690
計上残高	¥	6,310.
残高	¥	7,644
不明金	¥	+ 1,334.

○中ア 幸の川と悪沢 アイクライミング

Member L 角谷 森

1/8 校本 → きこまの岳 Ski 場

⊗ 3:15 登

⊗ 3:30 テントをは

雪がたふよつてあり 氷が出てくるが不安。林道E道とあいて テントをは
直ぐのコンクリートのえんていの氷を登る

1/9

⊗ 7:30 T.S 登 エレベーター用具とガレージを出

⊗ 8:20 登山道とをかた谷へ入る

雪がたふよつてあり 歩きたく つか 氷の上と
せむしをくはまか入る

⊗ 11:00 最初の大石を滝でく。氷の上の雪がたふよつてあり
氷もよこさないので 帰りにしたす

⊗ 1:20 Ski 場

○中ア 奇美世の滝 アイクライミング

Member L 角谷 森

1/26

① 8:55 キャンプ場 ランセルととんぼをく

① 10:20 奇美世の滝

① 11:00 取付 35m

① 2:15 終了 2P. 25m

① 3:30 夕かた 40m. けんすい 2回で取付のやを左

① 4:30 キャンプ場

いすばんやせしきろくたに取付がしんかた 50~80度こす
部分的にバーチカルな所も。氷が非常にかた。アイゼンが入る
くすした。本流の滝は上流が非常にむすかしげだった。

○ 伊豆・城ヶ崎海岸

Member L. 下田・加藤・小野・飛田・安田

1/6 城ヶ崎着

1/7 ファミリークラックエリアにて (全2トッブロー)

ハビー クラック 5.6
ミスター クラック 5.7
マガー クラック 5.10b
マイ クラック 5.10a

*午後 お茶の磯でボルダ― (豊田が出現した)

1/8 マガークラック

アールクラック 5.8

ファガー クラック 5.10a 午後 飛田・安田が帰る。

ブラガー クラック 5.9

マイクラック

1/9 ブラガー クラック

午後 自然研究路を散歩中に、下田が
ネギを食べて直ぐ帰りました。

Comment)

楽しいと3でした。ちふとEITでもトレーニング
していら 沢山登ってもっと面白く

なると思う。

(加藤)

おありのことば

'85年度は、もうすぐ終わろうとしています。

思いおこせば、新歓コンパで、今はもう退部してしまった
江口君も含めて、生死をさまようが、運が悪くて、現在も
こうして、生きておられる人が何人いたでしょうか。

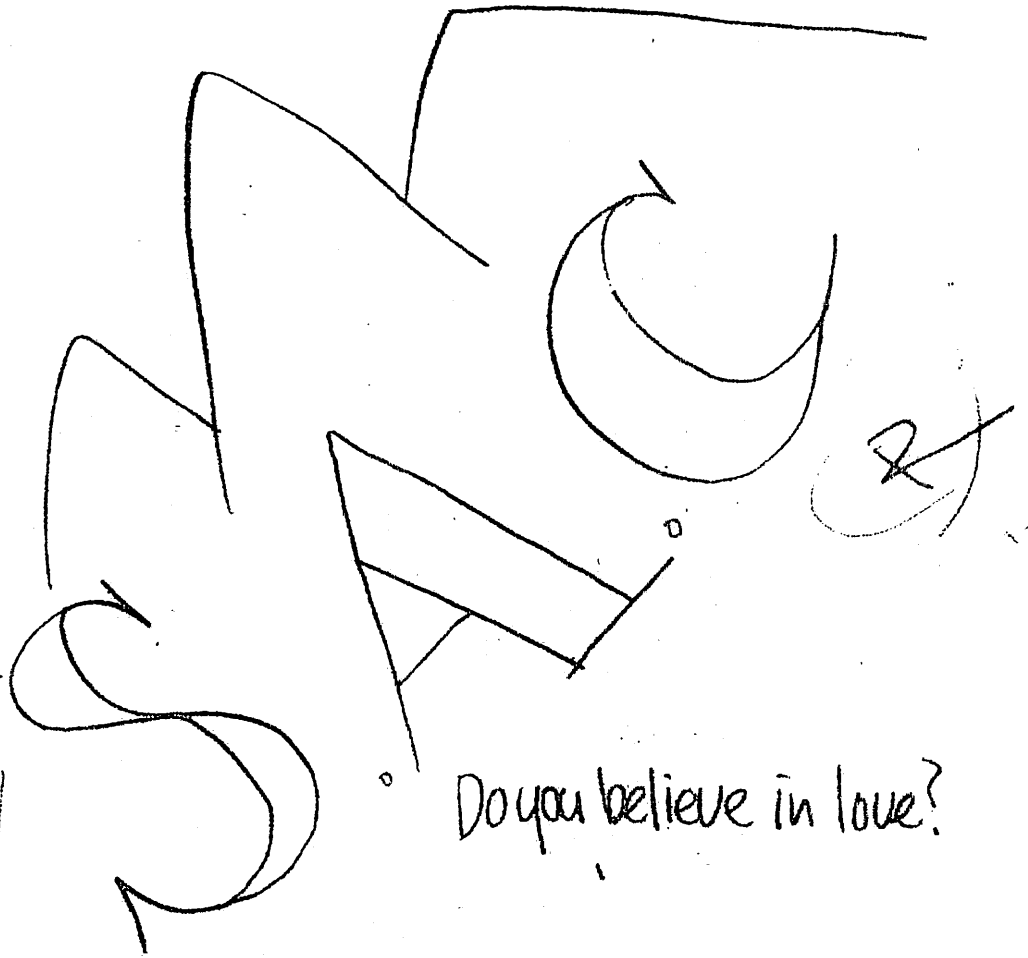
こんなことを言うと、会全体のカ量が低下してしまっ
て何かあごとく、さびしい、何か危険な気がしてなくなって
しまします。

しかし、依前として、山への情熱は生きつづけているし、
多少のちがいはあっても、それは、今も昔も変わらない。変
わらないはかりが、新しい分野・新しい技術によって、困難
とされていたところが登れるようになり、情熱は、広く、強く
なっているとさえ、言えると思えます。

我々は、山登り集団です。山登りは危険なスポーツだ
と人が言う。しかし、我々の登山は、下山することが大前提の
登山です。たしかでも、下山しないことを前提に入山する人は
いないか、いかに登るかとか、考えはしめるところから登山は、はじま
り、下山してから、どうであったのか、まとめるまで登山は続きます。
登山はいいというものでなく、単なるスポーツでもなく、知らない
に登山はあり得ないし、登山のダイナミクスは、ここにこそあると、
さえ言えます。

いる人がそこが、あったか、事故を起こしたら、起こさないう
ら、あるのが原則です。私自身、リーダーとして、至らぬ点
は、かりであったと思えますが、冬合宿が終るにあたって、人
人、一つづつは、何か反省あることがあると思えます。みんな
力を合わせて、山岳会を盛りたてていきましょ。

リーダー 藤田正弘



Do you believe in love?

85年度

Pre冬、冬山合宿、他報告書

信州大学山岳会

松本市旭 3-1-1